

事務事業番号 30640

根拠法令	決裁(町家情報バンク支援に係る助成金交付要綱)									
実施方法	☒ 直営 ☐ 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:									

事業概要説明シート

事務事業番号 30640

事務事業名	町家情報バンク支援助成事業				
事業開始年度	平成21年度	担当部署	都市整備推進室		
活動実績	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
	① 新規出店数	軒	1	2	2
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	① 総事業意 / 新規出店数	千円	8,385	4,926	4,459
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	枚方宿地区の歴史・文化を活かしたまちづくりについては、これまでの歴史的な景観を保全し、良好なまちなみを形成していくための助成事業と、新たに賑わいを創出するための新規店舗の出店などに対する助成事業に大きく分けられる。 共に長期的な視点から継続すべき事業だと考えるが、街なみは枚方宿の街道が連続して調和した景観に整うことが望ましく、賑わいは店舗が集積して生み出すなど、枚方宿地区においてゾーン形成されても良いと考える。 これらについては、今後のまちなみや店舗の広がりを見つつ事業効果を確認しながら、3年から5年の期間単位で評価を行いながら事業展開していく。(年間2件程度を予定し、予算計上)				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	地域の活性化を図るため、新規店舗の出店者に対し助成している市町村はあるが、店舗の内装工事助成ではなく、家賃補助が殆どである。				
特記事項	ほぼ市単費で短期中期的に実施する事業である。 類似事業との1本化について、枚方宿歴史的景観保全地区修景助成事業は国の補助制度を活用して街なみの保全整備の観点から長期的な視点で実施する事業であり既に体系化していることから困難であるが、家賃補助制度である枚方宿地区出店促進事業については賑わいづくりの観点から短期中期的に実施すべき事業であり、本助成事業との1本化により効果的に事業を進めることが可能である。 本事業により、3年間(H21～H23)で6店舗の誘致ができたが、要因として、地元の物件斡旋などの取り組みが着実に進められた結果である。内装工事は投資的な費用であるが、家賃補助と一体的に運用するのが適切と考える。				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	エリアを含めた助成範囲の拡大について検討する。(補助上限額を2分の1に減額し、助成範囲を街道沿いから枚方宿全域に拡大した)			
一次評価結果	・他事業も関連しており、体制の見直しを図り、人件費を削減できるのでは(30637～30640) ・事業としてのあり方の検討の必要性があるのでは				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	改善	地域振興部が24年度より実施する枚方宿地区出店促進事業とあわせ、ハード部門とソフト部門とが連携しながら、効果的に枚方宿地区全体の賑わい創出を図っていく。定期的(3年程度)に事業効果を確認しながら実施する必要がある。→事業としてのあり方を検討 本町家情報バンク支援助成事業及び枚方宿歴史的景観保全地区修景助成事業並びに都市景観形成事業の事務内容について、区分分けが不明瞭なところがある。関連性が高いため区分けしにくい点もあるが明確化したい。→従事職員数の見直し			